

同援だより

2024年 秋季号 (201号)



来年度の社会保障・社会福祉政策の動向

理事長 飯山 幸雄



今年の夏は例年になく暑さでした。9月に入ってからまだ連日30度を超え、35度という日もありました。これも地球温暖化の現れの一つかと考えられますが、8月下旬に来襲した台風10号の不規則な進路と動きの遅さも、やはり温暖化により大気の様相がこれまでとかなり違って来たことを示しているのではないかと考えてまいります。私たちは日々の暮らしの中で、二酸化炭素の排出を少しでも減らす努力をしていかなければならない、と改めて思います。

さて、9月に入り政府の来年度予算編成作業が本格化しました。8月末に締め切られた各省庁の令和7年度一般会計予算の概算要求・希望額は、117兆6,059億円と、今年度予算を6兆5,343億円上回るものとなっています。このうち厚生労働省分が34兆2,763億円(4,574億円増)、こども家庭庁分4兆2,189億円(732億円増)で、合わせて38兆4,952億円(5,306億円増)で全体の32.7%となっています。また、別途、こども・子育て支援特別会計に厚生労働省が1兆577億円、こども家庭庁が2兆2,410億円、合わせて3兆2,987億円の要求を行っています。

概算要求に当たり、厚生労働省は重点要求の柱を「Ⅰ. 全世代型社会保障の実現に向けた保健・医療・介護の構築 Ⅱ. 持続的・構造的な賃上げに向けた三位一体の労働市場改革の推進と多様な人材の活躍促進 Ⅲ. 一人一人が生きがいや役割を持つ包摂的な社会の実現」とし、こども家庭庁は要求のポイントを「1 こども・若者世代の視点に立った政策推進とDXの強化 2 若い世代のライフデザインの可能性の最大化と社会全体の意識改革等 3 より良い子育て環境の提供 4 すべてのこどもの健やかな成長の保障」としています。

両省庁はこのような基本的な考えの下、上記一般会計要求額を多数の事項で計上しています。厚生労働省のⅠの中では「医療・介護におけるDX、地域医療・介護の基盤強化の推進等」「地域包括ケアシステムの推進」「認知症施策の総合的な推進」Ⅲでは「障害者支援の促進」「困難な問題を抱える女性への切れ目のない支援の推進」が、こども家庭庁の3の中には「保育の質の向上等」「社会的養護支援」4では「障害児支援・医療的ケア児支援等」が上げられています。これらの予算で社会福祉・児童福祉施設、病院における利用者サービスの向上が図られることを期待し、今年の下半期も同胞援護会の施設・病院の運営の充実に努めていきたいと考えています。

評議員就任挨拶



評議員 くぼた よしゆき
久保田 義幸

この度東京都同胞援護会様の評議員に就任いたしました板橋区社会福祉協議会常務理事、事務局長の久保田義幸と申します。

戦後まもなく発足し、戦後処理の一翼を担うとともに、東京における地域福祉の先駆けとして広範な活動を展開され、我々社会福祉協議会の母体でもありました東京都同胞援護会様の一員に加えて頂き、身の引き締まる思いであります。高邁な基本理念、基本方針のもと永年に亘り児童、母子、高齢者、障害者、生活困窮者等多くの人々の福祉実現に向けた様々な事業を推進し、地域の福祉向上に多大な貢献をなされた東京都同胞援護会様は、まさに社会福祉団体の鑑として我々の範とすべきものであります。特に近年は、長期にわたる景気低迷局面や鳥インフルエンザ、東日本大震

災、新型コロナウイルス感染症など様々な困難に見舞われる中、多種多様かつ数多くの福祉施設の運営をはじめ、あらゆる分野での福祉支援に営々と取り組まれ、依る人々の暮らしを支える為に、誠に多くのご労苦を費やしてこられたものと拝察いたします。私共社会福祉協議会でも地域の課題解決に向け、様々な福祉施策、事業を展開しております。その中で課題となりますのは福祉サービスの担い手確保と協賛・支援者の増強であります。これは地域福祉遂行にかかる根幹をなす課題であり、関係機関・団体の連携協力を得て、様々なチャンネルを通じあらゆる手段を尽くして新しい人の獲得に努めて参ります。東京都同胞援護会様におかれましては、大所高所からのご教示、ご支援を賜れば幸いです。結びに、東京都同胞援護会様の事業が益々発展し、地域に住まう人々が安心して暮らす事の出来る幸せな社会が実現することを祈念して、就任のご挨拶といたします。



評議員 じんの ほら のぶゆき
陣野原 伸幸

このたび貴法人の評議員に就任いたしました陣野原伸幸と申します。どうぞ宜しくお願

いたします。

私は、長年勤めてまいりました豊島区役所等を退職した後、縁あって長い歴史と高い実績をもつ貴法人の評議員を務めさせて頂くことになり、身の引き締まる思いです。

在職した豊島区役所では、管理職としての初めての仕事が全く経験のない障害福祉で右往左往する毎日でしたが、職員とともに、障害のある方々と家族や障害者団体の皆さんと積み重ねた対話、そして当時、先駆的な施設であった心身障害者福

祉ホームさくらんぼの運営に積極的に取り組む貴法人との仕事が、深く思い出されます。

その後も在宅福祉・介護保険等と福祉の仕事に携わりましたが、当時、福祉改革が進み福祉制度が大きく変貌していく時代に数多くの民間事業者が参入する中であって、貴法人をはじめ社会福祉法人が、福祉の持続的な発展にとっていかに大きな原動力となっているか実感しておりました。

現在も変化する福祉において、その役割の大きさは少しも変わらないと思っております。

これから評議員として、「どのように地域と手を組み利用者を支援していくのか」の視点を持ちながら、生き難い方々を支え助ける福祉の現場に立ち続ける貴法人が今後もますます発展されますよう、微力ですが職責を果たしてまいりたいと思います。重ねて宜しくお願申し上げます。

＼施設間交流／

『オーレー！オーレー！ マツケンサンバー♪』

昭島荘・昭和郷保育園・昭和郷第二保育園／宮本浩史 清水淳子 川村純子



『職員が咲かす笑顔の花、オーレー！』

6月の梅雨入り前のぽっかりと晴れた空に、楽しい音楽と子ども達の笑い声が響きました。

昭和郷内初めての取り組みで、『昭島荘祭』と称して昭島荘、昭和郷保育園、昭和郷第二保育園の3施設で合同のお祭りを開催しました。

きっかけは昭島荘の職員からの発想で、「もっと地域に昭島荘を知ってもらいたい」「保育園と合同で楽しいことをしたい」「利用者が参加して楽しめるお祭りをやりたい」ということから始まった企画でした。

コンセプトは「学園祭みたいに楽しく、盛り上がること」

昭島荘からの誘いかけに、すぐに賛同した保育園。どんなことをしたら盛り上がるか…とお互いが案を出し合いましたが、まずは初めてのことから、『とにかくやってみよう！』と動き出しました。

日頃の忙しい保育のさなかでも、子ども達は普段から踊り慣れているよさこいを披露したらどうか、子ども達が喜ぶのはどんな縁日か、など子ども達が楽しめることを中心に考える職員をととても誇らしく思いました。そして、どうせやるなら大人も盛り上がりとう、2園合同の保育園職員で「マツケンサンバ」を踊ることにしました。練習のかいあって、先生たちはしっかりと踊りをマスターし、2園合同の練習では大笑いしながら振り付けの合わせをし、本番でも大盛り上がりで、笑顔の花を咲かせました。

迎える昭島荘の職員も、スーパーインチキバンドを結成し、ギター・ドラムス・サクソ・ボーカルがヒット曲やアニメのテーマ曲を奏でます。

子ども達や来場者を楽しませるように、縁日は大忙しです。手作りの景品付き輪投げやパターゴルフ、無料の飲み物にポップコーン、綿菓子などまさに開催意義の通りのごちゃまぜの会場は、まんまと大成功となりました。

みなが得意なことを活かし、それを披露して楽しむことができ、地域の方にも喜んでいただき、楽しいことや笑顔があふれる時間は自然に人を幸せにし、このようなことの積み重ねが幸せの輪や絆を広げていくのかなあと感じた瞬間でした。

昭和郷施設は10の施設が集中しており、子どもから高齢者、障害者までの多様なサービスを地域に提供しています。今回のように交流が様々な形で広がり、地域に幸せを広げていけるような『昭和郷』であり続けたいと感じました。

来年は3園の頭文字「昭」をとって、初夏なのに『あき祭り』とでもしましょうか・・・。



模擬店多数、ぜひ遊びに来てください!!



『子ども達も堂々と演目を披露しました』



『いろいろなお店がある！迷っちゃうなあ...』



『利用者の方も参加しました！』

令和6年度永年勤続表彰

永年勤続表彰式が令和6年10月2日、3日に執り行われました。30年勤続3名、20年勤続14名、10年勤続26名の方々が表彰されました。今後益々のご活躍をお祈りしております。



30年 永年勤続を迎えて



『心に残っている出来事』

大山保育園
保育士

かわせ くみこ
川瀬 久美子

平成6年4月に入職し30年目を迎えることができました。

30年働いてきて、たくさんのお子様と出会いました。就職して3年目までは、こうしなくてはいけないと思いながら保育をしていた時に、先輩保育士から「この子達はまだ生まれてから数年しかたっていないのだから、出来なくて当たり前だよ」という言葉をもらい、確かに生まれて数年でまだ経験していない事をこれからやろうとしているのに求めすぎている自分に気付かされました。それからは子ども達がたくさんの事を経験できるように、同じクラスの保育士と保育してきました。

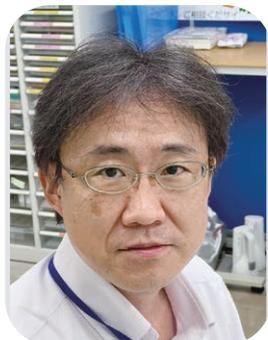
一番の思い出は5年間同じ子ども達を担任出来た

事です。入園してきてから子ども達の成長する姿、喜怒哀楽や様々な表情を見られました。その中でも5歳児クラスになってからの和太鼓指導が印象に残っています。和太鼓の初めての発表となる運動会が近づくにつれリズム打ちが難しくなり、リズムに合わなくなってくると諦めてしまう子もいました。側でリズムを声に出したり一緒にバチを持って叩きながら合わせられるようにしたり、太鼓指導以外の時間に練習を取り入れていったことで、「できた!」という喜びの表情が多くなりました。それからは自信を持ってしっかりと太鼓を叩き、本番を迎えられました。クラスみんなで一緒に揃って叩き発表する姿にはとても感動しました。

この仕事を長く続けられたのはたくさんのお子様と出会い、日々の成長に携われた事です。卒園した子が社会人野球選手になったり、保育実習で保育園に来た時はとても嬉しく思いました。また保護者の方々から優しいことばを頂いたり、先輩や同僚が相談ののってもらえた事も続けられた理由の一つです。

これからも子どもたちの笑顔に囲まれながら保護者と職員で協力し合い、子どもたちの成長発達を支援をしていきたいと思っております。

20年 永年勤続を迎えて



『仕事とリフレッシュ』

新宿区榎町高齢者
総合相談センター
相談員

わたなべ たつお
渡邊 達雄

元々精神保健福祉を志望していた私が、縁あって

原町ホームに入職したのは20年前。当初は自分の専門性について悩みましたが、そんな私に先輩は言いました。「精神障害者の方も高齢者になるよ」と。確かにその通りと思い、高齢者福祉で頑張ってみようと思えました。

現在は地域包括支援センターで管理者をしてい

ます。現場の責任者として大変な日々を過ごしており、「この仕事は向いていない」「もうだめだ」と思ったことは一度や二度ではありません。

そんな私が大事にしているのは、ふらっと立ち寄り場所です。福祉の仕事は人間関係が濃密になりがち。だから、今いる場所がすべてと錯覚してしまうのです。そんな時、ふらっと寄り道をして何も考えずに過ごす、なぜか救われる気がするのです。

例えば、仕事の前や後にカフェに立ち寄るのもいいですね。私はスタバよりもペローチェの方がお気に入りです。食事だったら、イタリアンレストランで過ごすのも良いけれど、私は立ち食いそばの方が落ち着くかな。自分の「好き」が大切です。

年月を重ねるごとに、この仕事の責任の重さを痛感しています。できることは限られていますが、寄り道を大事にしてこれからも頑張りたいと思っております。

10年 永年勤続を迎えて



『同援との出会い』

さくらんぼ
生活支援員

ひだか
日高 こうだい
広大

私がまだ高校生だったころ、将来についてどんな仕事をしたいか決まらずに漠然と「人と関わる仕事がしたい。」ぐらいにしか思っていませんでした。大学のオープンキャンパスで最初、福祉とは別の学部を見学するために行ったのですが、見学の際、福祉学部がなぜか気になり福祉学部を見学しそのまま入学しました。それ

まで福祉には興味がなかったのですが、学生生活を過ごしていく中で自閉症児の療育ボランティアのサークルに所属しました。活動を通して「この子供たちは将来どのような生活を送るんだろう？」と興味を持ちました。そんな思いを持ちながら、東京都同胞援護会の説明会・施設見学を行い入職しました。

実際にさくらんぼという施設に勤めはじめ、施設の目的が“親亡き後を考えた施設”であり、学生の時に疑問に思ったことと向き合う仕事をするようになりました。私自身もこの10年間で子どもが生まれ、子どもの将来を考えるようになり、今までは利用者目線でばかり考えていたことが、親目線でも考えるようになりました。この10年間で学び、体験したことを活かし、さくらんぼを利用する皆様により良い将来を目指せるお手伝いが少しでもできるよう精進していきます。

表彰者の方々

30年

氏名	施設名	職種	勤続年数
北島真奈美	むさしの保育園	保育士	30年
川瀬久美子	大山保育園	保育士	30年
三上 知子	つつじが丘保育園	保育士	30年

20年

氏名	施設名	職種	勤続年数
宇佐見幸太	ニューフジホーム	介護職員	20年
齋藤 恵美	原町ホーム	副園長	20年
渡邊 達雄	新宿区榎町高齢者総合相談センター	相談員	20年
増田久仁子	新宿区榎町高齢者総合相談センター	相談員	20年
渡邊 拓未	ゆたか苑	介護職員	20年
河野 雄太	ひかり苑	園長	20年
小笠原麻記	昭和郷保育園	保育士	20年
一杉真寿美	つつじが丘保育園	保育士	20年
八巻美香子	双葉園	家庭支援専門相談員	20年
江澤 幸子	昭島病院	看護副部長	20年
篠田 実佳	昭島病院	薬剤師	20年
島村 和宏	昭島病院	放射線技師	20年
荻久保仁孝	昭島病院	放射線技師	20年
櫻井 和子	昭島病院	理学療法士	20年

10年

氏名	施設名	職種	勤続年数
首藤 一美	フジホーム	介護職員	10年
新宮 啓介	フジホーム	介護職員	10年
中村 阿矢	フジホーム	介護職員	10年
小澤 浩美	フジホーム	看護師	10年
栗原 百恵	原町ホーム	管理栄養士	10年
白崎 香純	ゆたか苑	介護職員	10年
三橋 京将	ゆたか苑	介護職員	10年
村上 恵美	万世敬老園	生活相談員	10年
人見 志帆	さやま園	生活支援員	10年
安藤 慎吾	さやま園	生活支援員	10年
日高 広大	さくらんぼ	生活支援員	10年
奥脇 康平	さいわい福祉センター	生活支援員	10年
吉田 真菜	さいわい福祉センター	生活支援員	10年
張替亜津子	むさしの保育園	保育士	10年
丸島 麻依	同援みどり保育園	保育士	10年
宗像 洋宙	同援さくら保育園	保育士	10年
西田 友奈	同援いぐさ保育園	保育士	10年
沼田 友佳	双葉園	児童指導員	10年
阪口 優	双葉園	児童指導員	10年
高杉 皆子	くすのき	児童指導員	10年
飯塚 美枝	昭島病院	看護師長	10年
池田谷洋子	昭島病院	看護師	10年
小林 聡子	昭島病院	看護助手	10年
金井 健太	昭島病院	臨床検査技師	10年
田崎 勝子	昭島病院	リハビリ助手	10年
岡部 裕美	昭島病院	事務員	10年



施設通信 魅力発見



「夏休みの思い出」

サンライズ武蔵野 母子支援員 ^{しまぶくろ} 島袋 ^{えりこ} 江利子
少年指導員 ^{まきの} 榎野 ^{なつめ} なつめ



できあがったTシャツを乾かしているところ。乾いたら完成です。

当施設は、夏休み行事として、「Tシャツ絞り染め」を7月30日に小学生以上の学童、8月3日に乳幼児の世帯で実施しました。

学童は、自分自身でTシャツに輪ゴムで模様をつけました。仕上がりを想像しながら集中して作業をすすめ、Tシャツを染料に入れると、「きれい〜」「ピンクかわいい。」と染まっていく様子を興味津々に観察していました。完成後はそれぞれ着用し撮影会を行いました。自分で作ったTシャツが綺麗に染まっており、みんなとても嬉しそうな表情をしていました。

乳幼児世帯は母がYouTubeやネットで事前に染め方を調べており、好きな模様をデザインしたり、黄色やピンク、青、緑の中から母子でお揃いの色や柄にするなどそれぞれが工

夫していました。母子が協力して作業をした後、バケツに染料を入れると、染料で水が染まっていく様子をじーっと不思議そうに見ている幼児の姿が印象的でした。

母親同士は作業中も子育ての話など共通の話題に和気あいあいと和やかな雰囲気でした。作業が済んだ幼児は、予め設置してある保育スペースで保育者とお絵描きや読み聞かせ、好きな玩具で遊んで母の作業が終わるまで楽しく過ごしていました。

絞り染め体験は、日本の伝統文化の魅力を知る良い機会になりました。出来上がったおそろいのTシャツを着て母子で外出する姿も見られ、夏休みの楽しい思い出となりました。



完成したTシャツ



クリアソン新宿との交流イベント

原町高齢者複合施設は新宿区で原町小規模多機能居宅介護センターと原町グループホームの2つの事業を運営しています。

いずれも介護保険上、「地域密着型サービス事業」と位置付けられ、その名の通り新宿区にお住いの高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるためのサービスです。

ご利用者が安心して豊かな地域生活を送るためには、地域の人々との交流や地域資源の活用なども必要となります。事業所が率先して地域の活動に参加したり、地域の人々が気軽に立ち寄れる場所づくりを通じて、支え合いの関係や協働のネットワークを構築することが大切と考えています。

私たちの事業は、さまざまな社会資源とつながりながらご利用者の支援に携わることができ、それこそが地域密着型サービスの魅力でもあると感じています。



夏祭り的一幕

『地域とともに』

原町高齢者複合施設
副所長 やました しゅうへい 山下 修平



クリアソン新宿との交流イベント

新型コロナウイルス感染症の流行により地域交流が難しい時期が長く続きましたが、現在は新宿区を代表するサッカークラブ「クリアソン新宿」との交流イベント、新宿区主催の「打ち水大作戦」への参加、町会の餅つきイベントへの参加など、さまざまな形で積極的に地域交流を図っています。

8月の原町小規模多機能居宅介護センターの夏祭りでは、目の前にある公園で遊んでいた子ども達がヨーヨー釣りに参加してくれました。そこには一生懸命にヨーヨー釣りをする子ども達と、それを温かい眼差しで見守るご利用者の姿があり、これぞ地域密着型サービスのひとつの理想だと感じました。

これからも地域社会とともに福祉のまちづくりに取り組む歩みを進めながら、いわゆる「普段着のご近所付き合い」ができる関係性を大切にしていきたいと思えます。



新宿区打ち水大作戦



町会の餅つき大会

「やってみたい」のチカラ

同援いぐさ保育園 副園長 おざわ たかゆき 小澤 崇之



真剣なまなざし

当園は、利用するお子さんたちが自分らしくいられる場所を目指しています。毎日を通り過ごす中で、一人ひとりの子どもたちが興味を持ったこと、「やってみたい」と感じたことを保育に取り入れています。

今回は実際に子どもたちの様子を紹介させていただきます。

4歳児のつき組は恐竜ブームが巻き起っています。2歳児の頃から恐竜ごっこでなりきる姿を見せ、幼児になって恐竜フィギュアでの遊びをきっかけに、絵本で恐竜の生態を調べるなど、飽くなき探求心でいろいろと吸収してきました。「ステゴサウルスは屋根のあるトカゲなんだよ」と名前の由来を豊富な知識で披露してくれ、大人も知らない

ことを教えてくれます。さらには恐竜を作りたい意欲へと発展していきました。空き箱などを組み合わせ恐竜の絵を見比べながら自分のイメージを形にしていきます。足の付け方など難しい部分は保育士がアドバイスをしながら一緒に完成させていきました。一度経験したことが、次に活かされていく成長の姿も見られます。保育士から言葉で教わることより、好きなこと興味のあることの方が吸収する速度に差があると改めて実感させられる瞬間でした。「もっと大きい恐竜を作るんだ」と話しており、次の「やってみたい」へ進んでいます。

一人ひとりの「やってみたい」を形にすることで明日も行きたくなる魅力ある保育園を今後も目指します。



テープで補習中

ご支援ありがとうございました (敬称略順不同)

ご 寄 付

◇アンカー・ジャパン株式会社◇石川恵利香◇中川謙夫

後 援 会

◇山田雅人◇幡野信子◇林優子◇林美枝◇高仲智子
◇(株)増田コーポレーション◇(株)サン・ホワイト 代表取締役
役 三宅真◇(有)ラッコクリーンサービス 代表取締役
佐々木憲寅◇(株)ミートショップの鈴政◇川口米店 川口順
文◇昭島ガス(株) 代表取締役社長 平畑文興◇浦野工業(株)
代表取締役 浦野静夫◇雪印メグミルク下坪牛乳販売店

下坪唱三◇(株)フソー◇(株)昭和造園◇(株)五嶋造園 代表取
締役 五嶋政吉◇(株)豊明◇(有)海老山◇東京冷機工業(株)◇(株)
コスモス医工 代表取締役 小林寿男◇マツダドライサー
ビス 日下幸宏◇ネオ・ハルト(株)◇(株)金井商店 代表取締
役 金井務◇(株)安江設計研究所 代表取締役 安江知之◇
唐沢電気(株) 代表取締役 小林利美◇(株)金祥堂紙販売◇昭
和の森エリアサービス(株)スマイルケア昭和の森◇創洋紙商
事(株)◇(株)木の里工房木薫◇さやま園保護者会

資格取得の紹介

次の方が資格取得しました。
日頃の業務に生かしご活躍を期待します。

【保育士】

- サンライズ万世 少年指導員 原 望海

祝表彰・感謝状受賞者

多年の功績とご協力に対し、次の方々が表彰されました。
おめでとうございます。

【東京消防庁池袋消防署 感謝状】

- 福祉ホームさくらんぼ



'25 採用 (新卒・キャリア採用) 募集中です!!

保育士 介護職員 生活支援員 児童指導員 他

- ご利用者やご家族と寄り添える方
- 新しい仕事にチャレンジしたい方
- 創造力を活かして仕事をしたい方
- 子ども達の成長に「喜び」や「やりがい」を感じることができる方

1,700名を超える
たくさんの仲間たちが
「あなた」を
お待ちしております。

採用説明会、採用試験は定期的 to 実施しております。
また、施設見学も随時受け付けております。



施設見学のお申込み



採用エントリー

お申し込みは
こちら



あなたのエントリーをお待ちしております



雑感



暑かった夏も終わり、季節は秋へと移り変わっています。読書の秋、スポーツの秋、食欲の秋、実りの秋…様々な秋があると思います。

私はもっぱら食欲の秋です。秋の味覚と言えは、秋刀魚にきのこ、栗、さつま芋、フルーツで言えばぶどう、りんご、柿などどれをとっても美味しいですが、何と言っても日本人の主食お米です。新潟出身の私は秋の稲刈りの時期の稲のにおいがなんとも言えないくらい好きで、

秋を感じます。

そんな食欲の秋。美味しいものを食べる事も好きですが、食べる為には作らなくてはなりません。作る事も好きです。今はネット社会クックパッドなどで調べれば食べたい物を何でも作れます。なんて便利な時代なんだろうとつくづく思いながら、食欲の秋を満喫したいと思えます。

(むさしの保育園方南分園 清水 記)

訃 報

元評議員の川向良和氏が、令和6年7月6日にご逝去されました。

川向氏は豊島区の保健福祉部長を歴任され、区内の小学校跡地の活用計画に携われ、同援さくら保育園の開設にも貢献いただきました。22年の長きにわたり、本会の発展に尽くされたことに感謝を申し上げます。

川向氏のご逝去を悼み、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

発行者 飯山 幸雄
社会福祉法人 東京都同胞援護会
東京都新宿区原町 3-8
電話 03(3341)7161 <https://doen.jp>

印刷所 東京都同胞援護会事務局
東京都墨田区両国 4-1-8

令和6年10月29日 発行

